

「デリバティブ取引に関する定例市場報告 (吉国委統計)」の第1回調査結果について

1998年9月30日

金 融 市 場 局

国際決済銀行（B I S）およびG10諸国（注1）の中央銀行は、96年7月にB I Sによって取りまとめられた「グローバルなデリバティブ市場統計の改善に関する提案（吉国委員会報告書）」（注2）を受け、新たにグローバル・ベースのデリバティブ統計の作成に協力して取組んでおり、本年6月末に第1回の調査を行った。今回公表する統計は、日本に関する調査結果である。なお、B I Sでは、参加各国の調査結果を集計し、追ってグローバル・ベースでのデリバティブ取引残高統計を公表する予定である。

B I Sでは、デリバティブ市場の透明性確保と、マクロ・プルーデンス上のモニタリング強化を目的として、①主要ディーラーだけを対象に、半期に1度作成される残高統計、②広範なディーラーを対象に、3年に1度作成される取引高および残高の統計、の2種類の統計を用いて、グローバル・ベースでのデリバティブ市場の調査を実施することにしており、標記調査は、上記のうち①に該当するものである。なお、上

記のうち②に該当するものは、すでに3年前に、「第1回金融派生商品売買高等調査」として実施されており（注3）、それに続く第2回の調査結果（取引高分）が、本日、本調査結果と同時に公表されている。

本調査は、「金融派生商品売買高等調査」と同様、金融機関の自主的な協力に基づき作成されるものであり、本邦からは、主要ディーラー18行が参加している（グローバル・ベースでは、G10諸国から75先が参加）。

本調査では、リスク・ファクターを、①外為、②金利、③エクイティ、④コモディティの4種類に分け、①商品別、②通貨別、③取引相手別、④残存期間別に、想定元本および正・負の市場価値について、連結ベースの計数を取りまとめている。

本調査結果の主要な特徴点をまとめると別添のとおりであるが、詳細については、インターネット上の日本銀行ホームページ（<http://www.boj.or.jp/>）より入手できる。

（注1）ベルギー、カナダ、スイス、ドイツ、フランス、英国、イタリア、日本、オランダ、スウェーデン、米国の11か国。

（注2）日本銀行月報1996年9月号掲載「グローバルなデリバティブ市場統計の改善に関する提案（吉国委員会報告書）」参照。

（注3）日本銀行月報1996年3月号掲載「金融派生商品売買高等調査結果について」参照。

「デリバティブ取引に関する定例市場報告 (吉国委統計)」第1回調査結果の概要 (注)

1. デリバティブ取引残高の規模

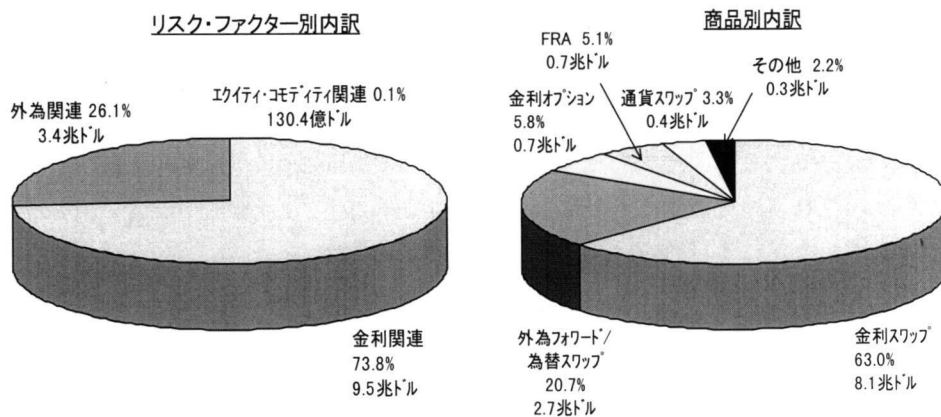
(1) 想定元本ベースの取引残高

本邦主要ディーラーにおける98年6月末の取引残高は、想定元本ベースで店頭（O T C）取引が12.9兆ドル、取引所取引が7.3兆ドルの規模。リスク・ファクター別にみると、金利関連取引のシェアがO T C取引で73.8%、取引所取引で99.7%と、金利関連取引中心の残高構成となっている。

—— なお、今回は、クレジット・デリバティブについても調査を行ったが、取引残高は98億ドル、O T C取引全体に占めるシェアは0.1%と極めて小さい。

O T Cデリバティブ取引の残高（98年6月末：想定元本）

12.9兆ドル

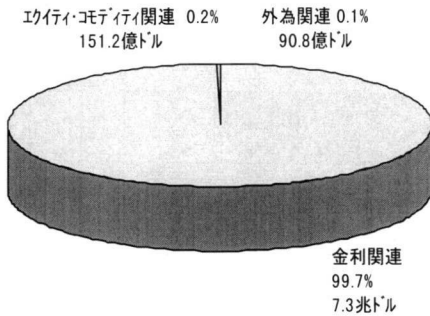


(注) 本調査では、報告対象金融機関間での取引の二重計上を調整していない。なお、B I Sより追って公表されるグローバル・ベースの残高では、二重計上が調整される予定。

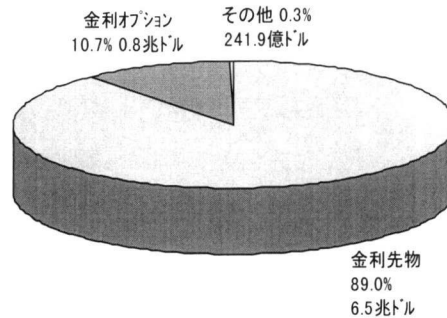
取引所デリバティブ取引の残高(98年6月末: 想定元本)

7.3兆ドル

リスク・ファクター別内訳



商品別内訳



一方、商品別の構成をみると、OTC取引の中では金利スワップが63.0%、取引所取引では金利先物(ロングおよびショート・ポジション)が89.0%と、最大のシェアを占めている。

(2) 市場価値ベースの取引残高

グロス市場価値ベースのOTC取引残高に関しては、正の市場価値、負の市場価値ともに約0.3兆ドルと、想定元本ベースの残高の50分の1程度となっている。市場価値の対想定元本比率をみると、金利関連取引に比べて外為関連取引の方が比率が高い(金利関連取引平均1.4%、外為関連取引平均4.0%)。

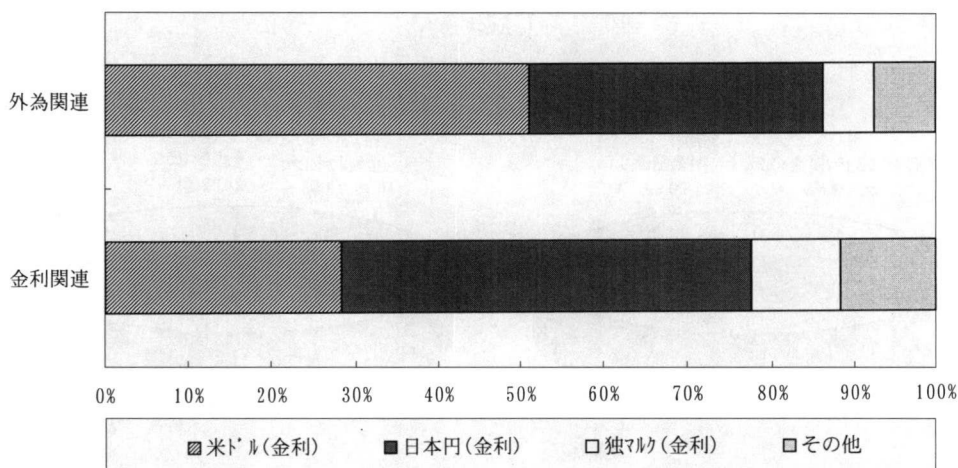
ネットティング契約を考慮後の市場価値については、正の市場価値、負の市場価値ともに約0.1兆ドルと、グロス市場価値の2分の1程度の規模となっている。

2. 通貨別内訳の特徴

本邦主要ディーラーのOTCデリバティブ取引の通貨別内訳を想定元本ベースでみると、外為関連取引については米ドルが最大のシェア(51.1%)で、日本円(35.1%)、独マルク(6.2%)がこれに続く。一方、金利関連取引については、円金利関連が49.4%と最大のシェアを占めており、米ドル金利関連(28.3%)、独マルク金利関連(10.7%)がこれに続いている。

——— なお、グロス市場価値ベースでみても、想定元本ベースの通貨別内訳とほぼ同様の構成となっている。

OTCデリバティブ取引の通貨別内訳(98年6月末:想定元本)



3. 取引相手先別の特徴

本邦主要ディーラーのOTCデリバティブ取引を取引相手先別にみると、調査参加金融機関（主要ディーラー）相互の取引が、想定元本ベースでも、グロス市場価値ベースでも7割以上を占め、その他広義金融機関との取引も含めると約9割の取引がディーラー間の取引となっている。

OTCデリバティブ取引の取引相手先内訳(98年6月末)

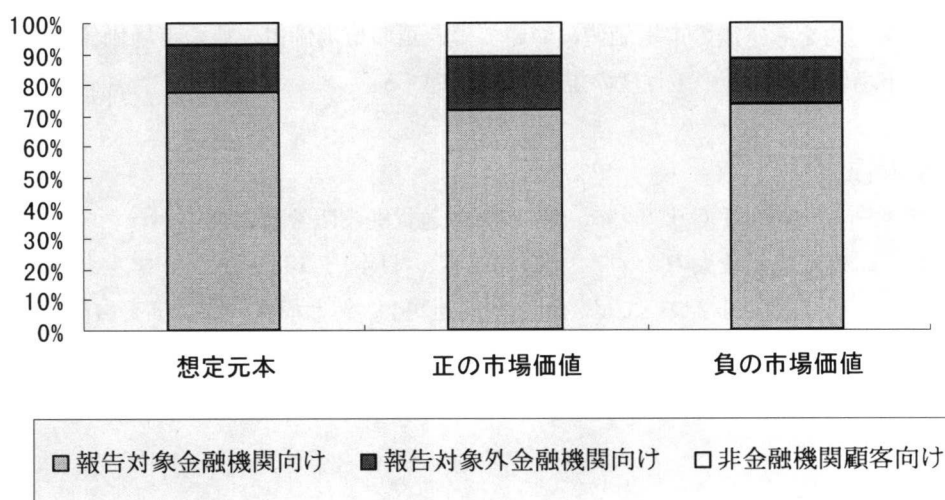


表1：本邦主要ディーラーにおけるOTCデリバティブ取引の残高

(98年6月末、百万ドル)

	想定元本		正の市場価値		負の市場価値	
		シェア (%)		シェア (%)		シェア (%)
OTC 取引合計	12,919,888	100.0	260,956	100.0	268,097	100.0
うち外為関連取引	3,368,938	26.1	134,031	51.4	133,894	49.9
フォワード・為替スワップ	2,678,985	20.7	104,949	40.2	104,484	39.0
通貨スワップ	419,973	3.3	25,256	9.7	25,622	9.6
オプション (売り)	135,222	1.0	—	—	3,789	1.4
オプション (買い)	134,765	1.0	3,829	1.5	—	—
うち金利関連	9,537,910	73.8	126,108	48.3	133,519	49.8
FRA(金利先渡し)	661,106	5.1	5,707	2.2	9,792	3.7
金利スワップ	8,133,444	63.0	110,924	42.5	110,193	41.1
オプション (売り)	410,111	3.2	—	—	13,538	5.0
オプション (買い)	333,248	2.6	9,484	3.6	—	—
うちエクイティ関連	10,406	0.1	639	0.2	668	0.2
フォワード / スワップ	5,599	0.0	64	0.0	50	0.0
オプション (売り)	2,661	0.0	—	—	618	0.2
オプション (買い)	2,146	0.0	575	0.2	—	—
うちコモディティ関連	2,634	0.0	175	0.1	15	0.0
フォワード / スワップ	457	0.0	—	—	—	—
オプション (売り)	1,027	0.0	—	—	—	—
オプション (買い)	1,150	0.0	—	—	—	—

(注) 合計、小計、項目毎に個別金融機関の計数を足し上げていること、および四捨五入の関係から、内訳の足し上げと合計、小計の計数は完全には一致しない。表2も同様。

表 2 : 本邦主要ディーラーにおける取引所デリバティブ取引の残高

(98 年 6 月末、百万ドル)

	想定元本	
		シェア (%)
取引所取引合計	7,301,791	100.0
うち外為関連取引	9,076	0.1
先物 (ロング・ポジション)	4,302	0.1
先物 (ショート・ポジション)	3,191	0.0
上場オプション (買い)	1,067	0.0
上場オプション (売り)	516	0.0
うち金利関連	7,277,597	99.7
先物 (ロング・ポジション)	3,297,816	45.2
先物 (ショート・ポジション)	3,200,081	43.8
上場オプション (買い)	439,404	6.0
上場オプション (売り)	340,297	4.7
うちエクイティ関連	12,176	0.2
先物 (ロング・ポジション)	1,106	0.0
先物 (ショート・ポジション)	1,430	0.0
上場オプション (買い)	4,400	0.1
上場オプション (売り)	5,240	0.1
うちコモディティ関連	2,942	0.0
先物 (ロング・ポジション)	61	0.0
先物 (ショート・ポジション)	54	0.0
上場オプション (買い)	1,620	0.0
上場オプション (売り)	1,207	0.0